

きゅう なか がわ
旧 中 川

江戸川区平井七丁目地先で荒川と分かれ、江戸川区と墨田・江東両区の境界を蛇行して南に流れ、江戸川区小松川一丁目ですべて再び荒川と合流します。昭和41年(1966)4月からこの部分を「旧中川」とよぶようになりました。

旧中川は本来、中川の本流でしたが、昭和5年(1930)の荒川放水路(現荒川)の完成で中川筋から分断されてしまいました。荒川放水路とほぼ同時期に掘られた中川放水路(現中川)が本流となり、この下流部分が旧中川とされました。

中川はもともと人工の河川です。埼玉県南部や葛西領一帯の地の開拓のための排水路として八代将軍吉宗の命で井沢弥惣兵衛が開削しました。はじめは沼や沢を連ね、幅も数メートルを出ない小さな流れでしたが、次第に改修を加えるたびに川幅が増して隅田川と江戸川の間を流れる河川となりました。屈曲の多い河川ですが、これは自然に蛇行した河川ではなく、高潮をふせぐために多く設計されたといわれています。

旧中川(中川)には橋がなく、往来は平井の渡しや逆井の渡しに頼っていました。区内最初の橋は、明治12年(1879)に架けられた逆井橋で小松川村と亀戸村を結びま



ふれあい橋よりスカイツリーを望む



旧中川遊歩道

江戸川区郷土資料室

した。村費^{そんび}による架橋の費用を補うために橋銭^{はしせん}を徴収した賃取橋^{ちんとりばし}でも知られています。明治27年(1894)に橋銭徴収は終り、明治31年(1898)東京府によって架けかえられました。昭和43年(1968)、江戸川、江東両区の負担で鉄橋になっています。平井橋は明治32年(1899)木橋が架けられ、昭和55年(1980)鉄橋になりました。



ふれあい橋(平井三丁目)

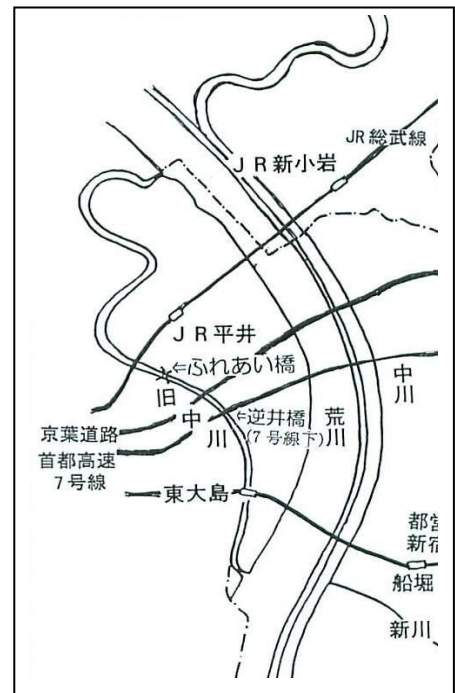
ふれあい橋と灯籠流し

ふれあい橋は、旧中川に架かる人と自転車のための橋です。江戸川区の平井・小松川地区と江東区の亀戸地区を結び、両区民が相互に行き来してふれあい憩うことのできる橋となることを願って「ふれあい橋」と命名されました。

平成11年(1999)8月15日の夕刻、ふれあい橋のもとで、地元の人々によって旧中川の川面に慰霊と平和祈念の灯籠が流されました。昭和20年(1945)3月の東京大

空襲での犠牲者慰霊を目的とするものです。東京大空襲での平井・小松川地区の罹^り災者は約4万人、旧中川での死者は2,800人余りと伝えられています。

以降、毎年8月15日には江東区と合同で慰霊灯籠流しが行われており、過去の悲惨な歴史を忘れないよう、次の世代へと伝えていきます。



ふれあい橋沿いに立つ表示板(左) 旧中川の地図(右)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)